

第32回福生市青少年の意見発表大会



第32回 福生市青少年の 意見発表大会 記録集

と き

令和7年11月1日

と ころ

福生市民会館 小ホール
(つつじホール)

目 次

主催者挨拶	福生市青少年問題協議会会長 福生市長 加藤 育 男 … 2
来賓挨拶	東京都議会議員 田村 利 光 … 3
司会者紹介	… 4
意見発表	
1 暑い日々を乗り越えるために	都立福生高等学校1年 及川 結 衣 … 5
2 つながりと成長の卓球	都立多摩工科高等学校1年 河田 庸 汰 … 7
3 外国人の差別	福生第二中学校2年 山道 瑚 乃 … 9
4 選択教科制の導入について	福生第三中学校2年 村野 翠 音 …11
5 生活の円グラフ	福生第一中学校1年 眞賀里 涼 …13
6 ニュースを見て	福生第二中学校2年 高島 瑛 翔 …15
7 自分の居場所	都立多摩工科高等学校1年 永谷 松 雄 …17
8 見えない理由	福生第一中学校2年 柴 琴 美 …19
9 福生市に対する食品ロスと 優しさロスの改善についての主張	都立福生高等学校1年 二瓶 壮 馬 …21
10 本当にそれは正義なのか	福生第三中学校2年 大塚 遥 …23
講評	福生市教育委員会教育部参事 森 保 亮 …25
来賓挨拶	福生市議会副議長 三原 智 子 …28
令和7年度福生市善行少年表彰	…31
令和7年度「家庭の日」図画・作文コンクール入選作品	…35

主催者挨拶

福生市青少年問題協議会会長
福生市長 加藤育男

皆さんこんにちは。

第32回福生市青少年の意見発表大会、大勢の皆さんにお集まりをいただきまして誠にありがとうございます。

本日は10名の中学生、高校生の皆さんに発表していただくことになっています。

意見発表大会に際しまして、そしてその後には善行少年表彰、また図画・作文コンクールの表彰式が控えているわけですが、意見発表者あるいは司会者、また、善行少年の表彰者の推薦をいただきました市内小・中学校、そして高校の学校長にも、今日は最前列に来ていただいております。御協力いただきまして心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、福生市は、「共働き子育てしやすい街ランキング」で、毎年非常に高い評価をいただいているところでございます。

昨年は東京都で1位、全国第3位という評価をいただいております。これも子どもたちに携わる関係者の皆さんの御努力によってということですので、この場をお借りいたしまして、感謝を申し上げます。ありがとうございます。

何としても、やはり子どもたち、これから将来ある、本当に未来を抱えているような子どもたちのために、私どもはしっかりと足固めをしていかなければということで、今年の3月には、こども計画を策定させていただきました。

やはり子どもが自由に意見を発表できる場、そして意見を発表しやすい場、そういう場を作っていかなければならない。

そして、それが「こどもまんなか ふっさ」の実現に影響するわけです。そのようなことを思っているわけでございます。

ぜひ今日の意見発表大会、御自分が今思っていることを堂々と大きな声で、皆さん方に発信していただければと思っております。10名の皆さんよろしく願いいたします。

私も今日は本当に楽しみにしておりました。皆さんと一緒に聞かせていただきます。

どうもありがとうございました。

来賓挨拶

東京都議会議員

田村利光

皆さんこんにちは。東京都議会議員の田村利光です。

今日は善行少年表彰の皆さん、おめでとうございます。そしてこれから意見発表 10 名。

私は意見を発表する際に、どのように伝わるか、伝わっているのか伝わっていないのか、そのようなことを勉強する素晴らしい機会ではないかと思っています。

といいますのは、失敗から学ぶことは大切で、今、AI が非常に注目をされていますけれども、AI が何ですごいのかというと、たくさんの失敗をしても、たくさんの失敗から最適な答えを出している。思いもよらない発想が出てきたりするからだそうです。

今の人間の社会では、効率よく失敗しないで正しい道が一番いいんだというように言われていますけれども、実は失敗から学ぶことも大変多いのだと思います。

私もこのような歳になってしまうと、もう学ぶことができないうです。ですから、今日発表していただく中学生・高校生の人たちには、今日はいい機会だと思いますので、思い切って発表していただいて、それから様々なことを学んでいく場にもなるというように思っております。

本日は大変ありがとうございます。

司会者紹介



福生市立福生第一中学校 2年 飯 田 彩加里



福生市立福生第二中学校 2年 三ツ矢 瑛 斗

福生市立福生第三中学校 2年 鈴 木 彩 水

暑い日々を乗り越えるために



東京都立福生高等学校 1年

及川結衣

近頃、日本の平均気温はどんどん上がってきている。十年前は三十度前後で「今日は暑いね」といった話題やニュースで持ちきりだった記憶があるのに、今では三十五度前後まで上がってきている日が多くなってしまった。もはや外に出て「今日は暑いね」なんて言う余裕もない。

こんなに暑い日が続く毎日を過ごしていくためには水分補給が欠かせない。水分はできれば常に近くに置いておきたい。しかし、実際はそう上手くはいかないものだ。

私は毎日水筒を持ち歩くようにしている。しかし、どれだけ飲んでも足りず水筒の中身はすぐになくなってしまう。追加するために自動販売機で買うと百円ほどかかる。これを毎日続けているためすぐにお金が足りなくなってしまうととても困っている。

校内の自動販売機は安いからまだいいと思うが、問題は学生以外の人達だ。学校ではない所で働く社会人の方や学校までお金を持ってこられない小・中学生は高いお金で買ったり、そもそも買えなかったりとかかなり辛いのではないかと思う。

我慢するという選択肢もない訳ではないが熱中症を引き起こす原因になってしまう。環境省の「平成二十年～令和五年の熱中症による救急搬送人員の推移」のグラフによると、平成二十年は約二万人ほどだったのが令和五年には四倍以上の約九万人に増えている。このような状況の中で水分を手に入れづらくなっているのはかなり深刻な問題なのではと思った。そこで私が思いついたのが街に給水スポットを作るのはどうかということだ。

私は昭島から福生まで毎日登校しているが、昭島の道を自転車で走っているといくつか給水スポットが置いてあり、ボトルに自由に汲めるようになっている。私は水筒の水をすぐに飲み切ってしまうため、本当に助かっている。福生にも同じよ

うに給水スポットを設置してみるのはどうだろうか。

公園の水飲み場のような水道を街の色々な場所に設置すれば気軽に水を飲むことができ快適に過ごせるし熱中症対策にもなると思う。これから先も日本はしばらく温度が上がり続けるだろう。そんな過酷な環境の中でも人々が過ごしていけるようにぜひ給水スポットを設置してほしい。

つながりと成長の卓球



東京都立多摩工科高等学校 1年

河田庸汰

小学生の時に児童館にあった卓球台で友達と遊んだことをきっかけに自分が本当に夢中になれる競技に出会いました。中学校に入学し、本格的に練習に取り組むようになりました。練習や試合を通して様々な経験を積むことで、卓球が単なる部活動や競技の域を超え、自分の人生の方向性を決める大切なものになっていきました。高校の進学先を選ぶ際にも、勉強や通学の条件だけではなく、卓球部の環境が自分に合うかどうかを第一に考えました。現在私が通っている多摩工科高校を選んだのも、卓球部の雰囲気や練習環境に強く魅かれたからです。熱心な顧問の先生や外部コーチ、卓球に対して強い思いを持って活動する先輩方、会場校としても使われる体育館に卓球台と卓球を頑張るのに必要な環境が全て揃っていました。この環境で卓球がしたいと強く思い、受検を決めました。

高校の卓球部に入ってからこれまでのつながりに加え、よりたくさんの人と出会うことができました。部内では先輩や同級生と互いに刺激し合いながら練習に励み、切磋琢磨することができています。更に、他校との練習試合や大会を通して、学校の枠を超えて多くの仲間と出会うことができます。相手チームのプレーから技術的なことを学ぶこともあれば、試合後に健闘を称え合い、友情を深めることもあります。卓球は一見すると個人競技なので、他とのつながりが希薄のように思えますが、こうした人との関わりの中で技術や精神が磨かれていくスポーツだと実感しています。学校からの支援も大きな力になっています。顧問の先生によって安心して練習や大会ができる場所が整えられています。先生方が励ましの言葉をくれたり、用務員の方が差し入れを持ってきてくれたり、家族が試合の応援に来てくれたりと周囲からのたくさんの支援が励みになっています。卓球を通して広がった人間関係の輪は、自分にとって大切な財産です。

そして、そんな周囲の方々が応援してくださる中で卓球に全力を尽くすことに

は大きな意義があると思っています。勝敗はもちろん大切ですが、それ以上に重要なのは、努力する過程で得られる学びや人との絆だと思います。試合に勝った時の喜びは一瞬かもしれませんが、その裏にある練習の積み重ねや仲間と協力することは将来の自分を支えてくれる力になると確信しています。負けたときには悔しさを味わいますが、それをどう受け止め次につなげていくかが成長の糧となります。卓球を通じて「勝つことだけが全てではない」という大切な気づきを得られたことは、今後の人生においても大きな意味を持つはずです。

私はこれからも卓球を通じて、人と関わりを持つことで成長していきたいと考えています。試合に勝つことだけでなく、仲間や応援してくれる人々に感謝し、努力する姿勢を大切にしたい人間でありたいです。そのためには卓球の練習はもちろん、学校生活にも真剣に取り組み、学業や人間関係の中で誠実さを持ち続ける必要があります。困難に直面しても諦めず、挑戦を続ける姿勢を忘れずに、どんな場面でも周囲から応援されるように頑張っていきたいです。そして最終的には他者を助け、社会に貢献できる人間になることが私の目標です。

外国人の差別

福生市立福生第二中学校 2年

山道 瑚乃

最近、日本に住む外国の方々をよく見かけるようになりました。外国から来た人たちは日本で働いたり、学校に通ったりして一生懸命生活しています。しかし、そんな人たちが差別されているという問題をよく耳にします。

例えば、「日本語が下手だから」と笑われたり、「外国人だから信用できない。」と言われたりすることもあるようです。でも、よく考えてみると私たちだって外国に行けばその国の言葉をすぐに話すのは難しいし、文化のちがいに戸惑うと思います。

私のクラスにも外国から来た生徒がいます。日本語があまり話せず、クラスとのコミュニケーションがとれていませんでした。しかし、クラスメイトである数人が声をかけたり、翻訳機を使って会話をする姿を見て「言葉が違っても話そうと思うという意味が大切」ということに気付きました。

人権とは生まれたときからすべての人が持っている、自由に生きるための大切な権利です。国籍・言葉のちがい、肌の色のちがいで差別されることはあってはならないことです。

そのために私たちができること、例えば、「偏見や固定観念をなくすこと」、自分の持つ固定観念に気付き、それらがどこから来るのかを考える。外国人の文化や生活習慣について理解を深める努力をする。「多様性を受け入れる」、「違い」を個性として尊重し受け入れる姿勢を持つ。差別的な言動を見聞きしたときには注意する。「人権問題に関する知識を深める」、人権問題に関する情報を積極的に収集し理解を深める。差別問題に関する本や記事を読んだり、講演会に参加したりすることがあります。

これらをふまえて、私は困っている人がいたら、ためらわずに声をかけていきたいです。小さなことでも、優しい言葉や笑顔が相手の心をあたたかくするかもしれ

ません。外国人も日本人もおたがいに認め合い、支え合える社会を目指して、私にできることを少しずつ始めていきたいです。

選択教科制の導入について



福生市立福生第三中学校 2年

村野 翠 音

これからの社会は多様化し、求められる能力も人それぞれ異なっています。そんな中で、「学校の勉強の仕方」も変化が必要だと感じます。現在の中学校は、全国的にほとんど同じような感覚で授業が行われていて、生徒たちは、同じ内容を学んでいます。しかし、すべての生徒に同じ知識を与えるだけでは、個性や興味を十分に伸ばすことは、難しいと思います。そこで注目したいのが「選択教科制」の考え方です。

選択教科制とは、必修教科の学習に加えて、生徒が自分の関心や将来の希望に応じて学ぶ科目を選べる仕組みです。例えば、理科が好きな生徒は、科学実験を中心とした発展的な授業を選び、美術に興味がある生徒は、絵画や専門的な知識について理解を深める学習を選ぶことができます。このように生徒が自分で選ぶということを経験することは、勉強への意欲を高め、自ら学ぶ力を育てることにもつながります。

また、この制度は個性を伸ばすことにもつながります。数学が得意な人、絵を描くのが好きな人、コンピューターに興味がある人などそれぞれの強みを発揮できます。さらに中学生ではまだ、自分の将来の夢がはっきりしていないことが多いですが、選択教科の勉強を通して、自分の適性に気づいたり、将来を考えるきっかけを得たりできるでしょう。

一方で課題もあります。小さな学校では、選択肢が限られてることや専門の先生が不足することです。また、友達に合わせて授業を選んだり、「楽しそうだから」という考えで選んだりする可能性もあります。しかし、地域の専門家を招いたり、先生や保護者の助言を取り入れたりすれば、解決に近づけます。

選択教科制は、ただ「好きな授業を選ぶ」ためのものではなく、自分で選び、自分で学ぶ経験を通して未来を切り開く制度です。導入されれば学ぶことがより楽

しくなり自分の将来について考えるきっかけも増えると思います。

このように様々な利点や問題点がありますが、「選択教科制」は自分の個性を最大限生かして学べる最適法だと私は思います。個人個人の得意なことは、どこかで役に立ちます。自分たちの夢を見つける第一歩としてこの制度が役に立ったり、自分の好きなこと、個性を十分に伸ばすために使ったりするときと、自分の一番の夢が見つかると思います。だからこそ、中学校に選択教科制を導入した方がいいと思います。

生活の円グラフ



福生市立福生第一中学校 1年

眞賀里 涼

私は、健康で活力に満ちた生活をするためには普段の生活の円グラフを作ることが大切だと思いました。生活の円グラフって何？と思っている人もいますが、私にとっての円グラフは、生活習慣を整える、一つのバランス表だと思っています。理由は、この生活の円グラフによって、私たちが普段過ごしている中で無駄な行動やプラスに変えられる行動が分かるからです。

普段の生活に活力をつけるには、バランスの取れた食事、適度な運動、十分な睡眠、この三つがとても大切だと思います。そこでみなさんは、この三つ、特に運動と睡眠のために、どのくらい時間をそそいでいるのでしょうか。普段の生活の中で、この三つにそそげる時間がどのくらいあるのでしょうか。一度振り返ってみてください。

私は夏休みの生活を振り返ると、朝八時起床、十時から十二時勉強、一時から二時お昼、二時から五時スマホ、動画を見る、五時から七時習い事、七時半から八時半夜ごはん、十時から十時半お風呂、十一時就寝となりました。そこで私は、スマホや動画を見てる時間が長いこと、夜ごはんを食べてからお風呂に入るまでの間が長いことに気が付きました。

そこで、スマホは一日どれくらい使っているのか調べてみました。すると、中学生がスマホを見ていいのは平均二時間から三時間、夜は寝る二時間前にはもう見ない方が良くと言われています。見すぎてしまうと、目が覚めたり、学力低下、またはスマホ依存してしまう可能性があるのです。

そこで私は、一日に約四時間から五時間もスマホや動画を見ていることが分かり、さらに寝る寸前までスマホやテレビを見ていることが分かりました。このままだと、自分は日に日に疲れやストレスがたまり、健康で活力に満ちた生活ができないと思うので、この夏休み、二時から五時の動画の時間を夏休みの宿題をする時間

に変えたり、夜ご飯を食べてからお風呂に入るまでのフリータイムをなくして、すぐにお風呂に入って早く寝られるようにするなど、工夫して生活できたらいいなと思いました。

そこで、自分の家族はどうでしょうか。健康で活力に満ちた生活を送れているでしょうか。私たちのお母さんは、朝早起きして、朝ごはんを作って、洗濯をして、たたんで、お皿を洗って、掃除して、買い物に行ったりなど、数えきれないほどの仕事を毎日してくれています。そこで、普段のお母さんの生活グラフを作ったら、どうなるでしょうか。きっと、円グラフの分割した部分がとても細くなると思います。その細かい仕事を一つでも減らして体を休ませてあげるために私にできることは、お手伝いだと思います。家全体の掃除をしたり、買い物に行ったりすることはまだできないけど、洗濯物をたたんだり、お皿洗いをしたりするのは自分でもできることだから、そういうできることから始めていって、どんどん自分のできることも増やしていきたいと思います。できることをどんどん増やして、お母さんの手伝いができるように、お母さんが少しでも休めて、毎日健康で活力に満ちた生活ができるようにしたいです。

このように、生活の円グラフを作ることで、普段の生活を見直し、無駄な時間をプラスに変え健康で活力に満ちた生活を送ることができるようになりたいです。また、勉強に力を入れるためにも、円グラフを使って生活リズムを整え、元気に毎日過ごしましょう。

ニュースを見て



福生市立福生第二中学校 2年

高島 瑛 翔

私は先日、ニュースで車いすの男性が駅の階段で困っていたとき、周りの人が声をかけて助けていたという話を見ました。男性は「声をかけてくれただけでもうれしかった。」と話していて、その笑顔がとても印象に残りました。

私はそれを見て、「私がもしそのような人を見かけたらすぐに声をかけられるだろうか。」と考えました。

私は、階段を上ることや、電車やバスに乗ることを簡単に誰でもできることだと感じていました。しかし、障害のある人にとっては、その「簡単」がとても大変なことだったりします。

私はこれを通して、人権について調べました。人権とは、人が人として自由に考え、振る舞い、自分らしく生きることができる権利です。障害があるかないか関係なく、誰にでも人権はあります。障害のある人などが安心して生活できるようにすることはとても大切なことだと思いました。

また、ユニバーサルデザインについても調べました。ユニバーサルデザインとはすべての人が利用しやすいように物や場所を作る考え方です。たとえば、スロープや自動ドア、音声案内などがあります。このような工夫はお年寄りや子どもにもやさしいです。私は、社会全体が、誰にとっても優しくなっているということに気づきました。

私は、障害のある人に対し、「かわいそう」と思うだけでなく、その人が困っていたときに、何ができるかを考え、行動することが大切だと思います。「大丈夫ですか？」と声をかけたりすることだけでも、きっと助けになると思います。

障害のある人が、もっと安心して出かけたり、楽しんだりすることができる社会になるためには、私たち一人一人のやさしさや思いやりが必要だと思います。私は、これからはまわりをよくみて困っている人に気づき、声をかけられる人でいたい

と思います。

そして、誰もが安心して楽しくすごすことのできる社会を目指していきたいです。

自分の居場所



東京都立多摩工科高等学校 1年

永谷松雄

私は群馬県北部にある人口約一万五千人のみなかみ町という田舎町で生まれ育ちました。山と川に囲まれ、夜は星が輝き、水や農作物がとても美味しい自然豊かな土地です。私は群馬のゆっくりと流れる時間の中で、のびのびと育ってきました。大好きな土地で何不自由なく生活していましたが、中学三年生の夏に、母の仕事の都合で東京都日野市へ引っ越すことになりました。突然の出来事で、心の整理ができないまま、新生活がスタートしました。もともと私は人と話すことが好きなので、母も周囲の人達も私にすぐに友達ができて、新しい学校にも慣れるだろうと考えていたそうです。しかし、群馬での生活から一変、気候や食べ物の違い、何より、すでに構築されている人間関係に飛び込んでいかなければならないことなど、東京での暮らしは想像以上にストレスがかかりました。新生活になかなか慣れることができず、体調を崩してしまう日々が続きました。

そのような状況の中で私に力を与えてくれたのが、小学校六年生の時に始めた卓球でした。中学校時代にも部活動や地域のクラブチームに所属し、熱心に活動してきました。今まで試合で立派な成績を取めたわけではありませんが、初めて頑張りたいと思えたのが卓球でした。近隣のクラブチームで練習を再開しました。そこで卓球を通じて東京での仲間を作ることができました。そこから徐々に東京での生活にも活力が生まれてきました。受検の時期を迎えた私は、高校選びも卓球に力を入れていることを第一優先とし、ものづくりに興味があった私のニーズを満たしている学校を探しました。そして見つけたのが、現在私が通っている多摩工科高校です。受検前に卓球部の練習に参加させてもらった際に、顧問の先生や先輩達的情熱あふれる練習態度に感銘を受け、自分もここで卓球がしたいと強く思い、受検を決意しました。結果、合格することができ、入学後は東京に引っ越してきた当初が嘘だったかのようにストレスのない生活に戻ることができました。卓球部の仲

間達と良好な関係性を作れたことがきっかけとなり、クラスメイトともすぐに仲良くなることができました。新しい出会いの中で自分の居場所を見つけることができたことが大きな自信につながり、部活動はもちろん、日々の学校生活での勉強や行事にも前向きに取り組んでいます。ありがたいことに、学校の職員の方々やクラスメイトが自分を応援してくれていることも大きな励みになっています。一生懸命頑張ることが周囲の人たちに認めてもらえることにつながり、それがきっかけで新しい関係性を構築することができるということに気づくことができました。

これから先の人生においても、学校を卒業したら、仕事を始めたらといったターニングポイントで新しい環境に身を置かなければならないことがあります。その時に、周囲の人に応援してもらえるように何事にも一生懸命に取り組んでいきたいです。それが、自分の居場所を作ること、ひいては人生を豊かにすることにつながると信じています。まずは高校生活での卓球部の活動において関東大会出場を目指して全力を尽くしていきたいです。

見えない理由



福生市立福生第一中学校 2年

柴 琴 美

「あの子、なんで学校に来ないんだろうね。」教室で誰かがつぶやいた。ただの何気ない会話だったけれど、私はその一言が心に引っかかった。その子がどんな理由で休んでいるのか、私にはわからない。でもその声を聞いて、私は「行きたくても行けなかった」日々を思い出していた。

小学生のころ、私は「起立性調節障害」という病気を抱えていた。朝起きると頭が重く、立ち上がるとめまいがする。授業も受けたいし、友達とも喋りたいのに、体が言うことを聞かず、休んでしまう日が続いた。さらにこの病気の辛いところは、午後や夜になると体調が回復することだ。元気な姿を見て「サボっている」と思われるのが怖かった。

長く休んでから学校に行く日は、少しだけ足が重くなった。勉強についていけるだろうか、友達とまた笑い合えるだろうか。不安を抱えながらも教室の扉を開けると、クラスみんなはいつも通りに過ごしていた。その姿を見て、胸の奥の不安は少しずつほどけていった。久しぶりの学校はやっぱり楽しかった。

やがて学年が上がるにつれて症状も少しずつ軽くなってきたが、それでも朝起きられずに休む日があった。そんな中、優しくて明るく、話していると自然と笑顔になれる友達に出会った。その子と話すのが楽しみで、「明日は何を話そう」と思うと、朝起きるのが少し楽しみになった。そうした日々を重ね、中学生になった今では、毎日元気に学校に通えている。

私は、この病気を発症する前は、休んでいる子を見ると休めていいなと思っていたけれど、実際に自分が学校に行けない立場になると、行きたいのに体が動かない辛さや、周りからの目線が怖かった。そのとき初めて「学校に来ないイコールサボり・羨ましい」という考え方は違うのかもしれないと私は思った。

今は通信制の学校やフリースクールなど、様々な学び方が広がってきている。そ

れでも、まだ学校に来ない子をよく思わない人もいるだろう。でも、休んでいる子にはその子なりの「見えない理由」がある。勝手に決めつけて学ぶ権利を奪われないように、みんなが認め合い、理解し合えば自由な生き方ができる社会になると私は思う。そして、そのための小さな一歩は、きっと身近なところから始まるはずだ。

私が教室に入る勇気をももらったように、今度は私が誰かの背中を押す人になりたい。

福生市に対する食品ロスと優しさロスの 改善についての主張



東京都立福生高等学校 1年
二瓶 壮馬

私は、福生市の「食品ロス」と、私が名付けた「優しさロス」について主張したいと思います。皆さんは、フードバンクふっさをご存じでしょうか。私はつい最近までその存在を知りませんでした。フードバンクとは、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品を、必要とする人に無償で届ける活動です。食品ロスを減らし、困っている人を支える、とても大切な仕組みです。

先日、私は学校のボランティアでこの活動に参加しました。実際に現場を見て、活動し、食品ロスを減らすための画期的な取り組みだと感じました。しかし、同時に問題点も見えてきました。

それは、この活動の認知度の低さです。ボランティア後に友人や家族に話しても、「初めて聞いた」「知らなかった」という声が多く、驚きました。なぜこれほど大切な活動が、十分に知られていないのでしょうか。

フードバンクふっさは、市民活動団体として運営されています。メンバーやサポートメンバーは約20名で、毎月の食品配布会を支えています。しかし、一度の配布会に必要な準備は、8～10人で3～5時間。さらに、配布開始前にも1時間かかり、食品を回収する作業も必要です。一部の作業は私も実際に行いましたが、非常に骨の折れる仕事でした。それらはすべて、無償のボランティアによって行われています。この活動のおかげで、多くの方が助かっていますが、実態は一部の善意だけに頼っているのです。

私はこの状況を「優しさロス」と呼びたいと思います。本来なら社会全体で支えるべき取り組みが、一部の人の善意に偏ってしまう。それが続けば、支える側の気力も削られ、活動が続かなくなってしまうかもしれません。

だからこそ、私はフードバンクふっさを市の事業として運営するべきだと考え

ます。行政の関与があれば、安定した運営ができ、広報も強化され、食品ロスを減らすだけでなく、地域の優しさを守ることもつながります。実際、フランスでは法律で食品廃棄を禁止し、余った食品を必ず寄付する仕組みを作っています。こうした制度は、行政が関与することで可能になるのです。

食品ロスを減らすことは、地球温暖化防止にも貢献します。私たち一人一人の意識と、行政の支援が合わされば「食品ロス」も「優しさロス」もない福生市を実現できるはずです。私はこの考えを、福生市に広めたいと思います。

本当にそれは正義なのか

福生市立福生第三中学校 2年

大塚 遥

※当日は欠席

最近、エックスやインスタグラム、ティックトックなどのSNSが発達してきています。SNSは色々な事ができるとても便利なツールです。また、私たちも普段の日常の中でそのようなツールを使う場面があると思います。そんなSNSですが、匿名やユーザーネームで個人情報を出さずに投稿やコメントなどができることから、誹謗中傷が問題になってきています。

誹謗中傷とは、他人を傷つけることを目的として、悪口や根拠のない嘘等を拡散したりする行為のことを指します。誹謗中傷の例を挙げると、配信者や動画投稿者に悪口のようなコメントを書き込んだりすることや、相手が傷つくような動画を投稿したりすることなどですが、私は誹謗中傷を正義だと感じてしまう場面もあるのではないかと思います。それは誰かが悪い事、つまり、私たちが見ていて「それは誹謗中傷されても仕方がないのではないか？」と感ずるようなことをしてしまった時です。

事例を挙げると、あるゲームでチーミングという、敵なのに協力して試合に臨むという規約違反行為を行ってしまい、誹謗中傷を受けていた選手がいました。この選手は大切な大会を控えていたのですが、アカウントへログインできなくなってしまい、大会に出られずチームメンバーに迷惑をかけてしまったという点からも誹謗中傷をされていました。この選手は、チームメンバーだけでなく、ファンの人などへも謝罪を行っていましたが、その投稿へも、「戻ってくるな」などのコメントをしている人がいました。また、その件の後に、本人が行っていたかの根拠がない規約違反行為についても「行っていた」という内容を拡散したりしている人もいました。

この件は、本人が悪い事をしていたという所からはじまった誹謗中傷でしたが、

本人が悪いことをしたからといって、誹謗中傷をしてもよく、その場合の誹謗中傷は正義となり、許されるものになる訳ではないと思います。私は、悪いことをしている人がもしいたとしても、誹謗中傷をするのではなく、当事者同士で話し合いなどをして、解決すべきだと思います。また、直接関係のない人も誹謗中傷につながりそうな投稿を広めるのではなく、通報などをして広がるのをおさえていく必要もあると思います。誹謗中傷は、人権侵害にあたりたり、罪になったりしてしまう場合もあります。他にも、誹謗中傷を受けて、自殺してしまう人も少なくありません。誹謗中傷はこれほどに相手を傷つけてしまいます。

私は、「悪いことをしたから」といって、誹謗中傷をせず、誹謗中傷に少しでも加担してしまうような行動をしている人を止められるようにしていきたいと考えます。

福生市教育委員会教育部参事の森保でございます。

32回目を迎える福生市青少年問題協議会主催「福生市青少年の意見発表大会」に、講評者として参加をさせていただきました。中学校、高等学校9名の生徒の皆さんによる熱い思いのこもった発表を伺い、私自身の心はもとより、この会場にお集まりの皆さんが、心地よい空気に包まれていることと思います。今この時も世界情勢が不安定な状態が続いていますが、4月には大阪万博、9月には世界陸上が東京で開催されるなど、文化やスポーツの交流が多く見られた年でした。このような中で、今年も本大会が無事に開かれたことを大変うれしく思っています。

さて、9名の生徒の皆さんの発表を拝聴し、改めて、様々なことを考えさせられました。毎年、生徒の皆さんが、新たな社会問題や旬な話題に着目し、真摯に向き合い、中学生、高校生だからこそ持ち得る感性から素直に表現されていて、大変胸が熱くなる思いです。

さらに、このような会を企画し、長年継続、実施されてこられた加藤育男会長を始めとする福生市青少年問題協議会の皆様に改めて敬意を表するものでございます。

それでは、お一人一人の御発表について、一言ずつではございますが、感想を述べさせていただきます。

1 都立福生高等学校 1年 及川 結衣 さん

「暑い日々を乗り越えるために」

地球温暖化による気温上昇という地球規模の課題と、それによる水分補給の経済的・物理的な困難さという、身近な生活の課題を結びつけた着眼点が秀逸です。水筒だけでは足りず、毎日高額な自動販売機の飲み物を買う経済的な負担を自身の体験として語り、この問題が学生だけでなく、学校に安価な自販機がない小・中学生や、社会人にも広がる深刻な問題だと捉え直している点が素晴らしいです。さらに、熱中症による救急搬送人員が十数年で4倍以上に増えているという環境省のデータを活用し、この問題が命に関わる喫緊の課題であることを強く訴えかけている点も説得力があります。身近な不便さから社会全体の生命の危機へと視点を広げた、問題意識の高さと、解決への意欲が強く感じられる発表でした。

2 都立多摩工科高等学校 1年 河田 庸汰 さん

「つながりと成長の卓球」

小学生の時に出会った卓球という競技が、単なる部活動や趣味の域を超え、自身の人生の方向性を決める大切なものになったという経験が、熱い思いとともに伝わってきました。高校進学先を選ぶ際に、卓球部の雰囲気や練習環境を第一に考え、熱心な顧問やコーチ、充実した設備が揃う多摩工科高校を選んだという決断は、競技への一途な情熱を物語っています。河田さんの発表を聞いて特にすばらしいと感じたのは、単に卓球に対する御自身の思いを語るだけでなく、支えてくれている方々への深い感謝の気持ちが表れていたことでした。そして、その感謝の気持ちが、他者を助け、社会に貢献できる人間になりたいという目標へと発展させたのでしょうか。河田さんのような感謝と目標をもつスポーツ選手が今後も増えることを願ってやみません。

3 福生第二中学校 2年 山道 瑚乃 さん

「外国人の差別」

現代の日本社会における外国人への差別という、重要かつ難しいテーマに正面から向き合った、非常に意義深い発表でした。「日本語が下手だと笑われる」といった具体的な差別的言動を提示し、自身が外国に行けば同じ立場になるだろうという想像力を働かせることで、差別の本質を鋭く突いています。さらに、クラスメイトの外国人生徒に対して、翻訳機を使ってでもコミュニケーションを取ろうとする友達の姿から、「言葉が違って話そうと思う意思が大切」という、国境を超えたつながりの基本となる真理を見つけ出した発見は素晴らしいです。結びでは、「偏見や固定観念をなくす」「多様性を受け入れる」といった、私たち一人ひとりがいますぐ実践できる具体的な行動指針を明確に示しています。社会を変えようとする姿勢はととても頼もしく思えました。

4 福生第三中学校 2年 村野 翠音 さん

「選択教科制の導入について」

これからの多様化する社会において、既存の教育システムに疑問を持ち、生徒が自ら学べる選択教科制の導入という具体的な改革案を提言した点が素晴らしい発表でした。選択制が、生徒の学習意欲の向上や個性の伸長、そして将来の適性発見につながるというメリットを、説得力ある言葉で論理的に説明していました。また、「友達合わせ」や「楽な授業選び」への懸念まで考慮し、制度の設計にまで踏み込んだ点も特筆に値します。教育の未来を見据え、現状をより良くしようという主体的な問題意識と解決への意欲が強く感じられました。実は日本でも過去に、すべての中学校で、生徒が学習したい授業を選ぶ選択教科を実施していた時期がありました。村野さんのような考えを持った方が増えてくれば、この制度が再び導入される日が来るのかもしれない。

5 福生第一中学校 1年 眞賀里 涼 さん

「生活の円グラフ」

健康で充実した生活を送るために、自分の生活を「円グラフ」という明確なバランス表で分析するという着眼点がとても面白く、多くの共感を呼ぶ発表でした。夏休みの具体的な行動を正直に振り返り、スマートフォンや動画視聴に費やす時間の長さという問題点を自ら発見した点に、高い自己分析能力を感じました。単に反省するだけでなく、中学生のスマホ利用時間の平均値や専門的な情報を自ら調べ上げ、夜は寝る二時間前に使用をやめるなど、具体的な解決策を導き出そうとする主体的な姿勢は、私たちも大いに見習うべき点だと感じました。生活習慣を見直す強い意志を持ち、理論に基づいた実践的な提案を行う力は、まさに今後の学校生活をさらに豊かにするための大きな原動力となるでしょう。

6 福生第二中学校 2年 高島 瑛翔 さん

「ニュースを見て」

車いすの男性を助ける市民のニュースを見て、「自分に何ができるか」を深く自問自答した姿勢に、真摯な思いやりを感じました。「簡単」なことが、障害のある人にとっては「大変」なことだという認識から、考察を一步進め、人権やユニバーサルデザインといった社会の仕組みにまで意識を広げた点は、中学生の主張として非常に高いレベルだと思います。そして、「かわいそう」という感情で終わらせるのではなく、「困っていたときに、何ができるかを考え、行動すること」の重要性を強調していました。具体的な行動として「大丈夫ですか？」と一声かけることが、単なる優しさではなく、困っている人の心をどれほど支えるかを力強く訴える結びは、この会場にいる一人ひとりの行動を促す心に響く素晴らしいメッセージでした。

7 都立多摩工科高等学校 1年 永谷 松雄 さん

「自分の居場所」

群馬の自然豊かな田舎町から東京への引っ越しという人生の大きな変化と、それによって生じた計り知れないストレスと孤独感を、非常に率直で感情豊かな言葉で語ってくれました。新しい環境に馴染めず、体調を崩すほど辛い状況の中で、小学校から続けてきた卓球が、精神的な支柱となったというエピソードは、特に心に残りました。近隣のクラブチームで卓球を再開し、新しい仲間を作ることができた経験は、永谷さんが困難を乗り越え、東京での生活に徐々に活力を取り戻していくきっかけとなったとのこと。趣味や熱中できるものが、環境の変化に直面した際の心の拠り所となり、新しい人間関係と「居場所」を見つける手助けになるというメッセージは、同じような経験を持つ多くの方々に共感を呼ぶものとなるでしょう。

8 福生第一中学校 2年 柴 琴美 さん

「見えない理由」

起立性調節障害という、外からは理解されにくく、「サボっている」と誤解されがちな病気との闘いを、自身の経験に基づき勇気をもって語ってくれました。朝起き上がれない辛さだけでなく、午後や夜には体調が回復するため、「元気なのに怠けている」と思われるのが怖いという、この病気特有の精神的な葛藤が、深く伝わってきます。久しぶりに登校する日の不安な心情と、クラスメイトの変わらない日常的な姿に救われたというエピソードはとても感動的でした。さらに、「この子と話したい」という気持ち、朝起きる原動力になった友達の存在は、病気の回復を支える人間の優しさの力を象徴しています。見えない困難を抱える人に対し、私たちが持つべき「想像力」と「優しさ」の重要性を、深く心に訴えかける意義深い主張だと思います。

9 都立福生高等学校 1年 二瓶 壮馬 さん

「福生市に対する食品ロスと優しさロスの改善についての主張」

福生市のフードバンクふっさでのボランティア経験を通して、「食品ロス」と同時に、支援活動の認知度不足と一部の善意への過度な依存を指摘し、これを「優しさロス」と名付けた独自の言葉と視点が、非常に独創的で深い洞察に満ちていました。画期的な活動が、たった約20名のメンバーとボランティアの骨の折れる無償の作業によって支えられ、その活動継続性が危惧されているという現状を論じている点に、地域社会への強い責任感を感じました。この「優しさロス」こそが、真の課題であり、この活動を地域全体で支える仕組みへと変えていく必要があると提案する姿勢は、高校生の発想として非常に優れていると感じました。問題を発見し、独自の言葉で定義し、地域を変えようとする行動力について、多くの若い方々に期待したいと思います。

以上、雑駁ではございますが、9名の生徒による意見発表への講評とさせていただきます。本日、意見発表をしてくださった生徒の皆さんの考えがきっかけとなり、中学生、高校生の皆さんが、熱い議論を交わしてくれることを、さらには、家庭や地域に、その議論が広がっていくことを心待ちにしています。

結びに、本日発表をしてくださった生徒の保護者の方々、日頃より生徒の御指導に当たられている3校の中学校の先生方、東京都立福生高等学校、東京都立多摩工科高等学校の先生方、本会の事務局を担当された福生市子ども政策課の皆様にご感謝申し上げます、私の講評とさせていただきます。

ありがとうございました。

【参考掲載】

福生第三中学校 2年 大塚 遥 さん

「本当にそれは正義なのか」

現代社会の深刻な問題であるSNS上の誹謗中傷に対して、「本当にそれは正義なのか」という鋭い問いを投げかけ、その倫理的な側面を深く考察した点が素晴らしいと思いました。特に、「誰かが悪いことをした際の、正義の名を借りた攻撃」という、最も複雑でグレーな領域に焦点を当てたことが、主張のレベルを上げています。規約違反をしたゲーム選手への厳しい批判の事例は、制裁と攻撃の境界線がいかに曖昧かを示しています。謝罪後にも続く「戻ってくるな」といったコメントを例に、匿名性のリスクや集団の攻撃性にも明確に警鐘を鳴らしていました。単なる禁止の訴えではなく、ネット社会における私たち自身の倫理観や心のあり方という根源的な問いを提示し、SNSを使う多くの人に聞いてもらいたいと感じる内容でした。

来賓挨拶

福生市議会副議長

三原智子

皆さんこんにちは。福生市議会副議長の三原智子でございます。

第32回青少年の意見発表大会に当たりまして、本来であれば佐藤議長が挨拶を行うところでございますが、本日は所用により出席が叶いませんでしたので、会場にも多くの議員がおりますが、福生市議会を代表いたしまして御挨拶を申し上げます。

まず司会進行を務めてくださいました3名の中学生の皆さん。ハキハキとわかりやすく、スムーズな進行をしていただきました。とても素晴らしいかったです。お疲れ様でした。

また、手話通訳をしてくださいました皆様、ありがとうございます。

そして、大会の主催であります福生市青少年問題協議会の皆様、大変お疲れ様でございました。

本日発表された皆さんが、人権や生活習慣、社会貢献、制度の提案、社会規範に関することなど、現在の社会の在り方に直結する様々なテーマについてしっかりと自分の考えを自分の言葉で堂々と発表されている姿にとっても感動いたしました。

こうした意見の発表の場だけでなく、日常的に自身の意見を他者に伝え、議論したり、意見が違うこともあるかもしれませんが、そうした議論の積み重ね、理解し合うこと、それから、尊重し合うことがとても大切だと思っております。

そして、私たち大人も、子どもたちや若い世代の皆さんの意見を聞くことを大切にしなければいけないと今日改めて思うことができました。ありがとうございました。

意見発表の内容は、先ほど福生市教育委員会より丁寧に御講評いただいております。これからも広い視野を持ち、それぞれが社会の中で輝かしい将来に向けて進まれることを応援したいと思います。

また令和7年度の善行少年表彰をされました皆さん、誠におめでとうございます。

地域の防災防火活動、美化活動やジュニア社会教育士養成講座への参加、学校や地域における課題の研究を積極的に行うなど、また、これ以外にも様々な善行を自ら進んで実践されましたことに心から敬意と感謝を申し上げます。どうかその心と精神を大事にし続けていただきますようお願いいたします。

令和7年度「家庭の日」図画・作文コンクールに入選された皆さん、誠におめでとうございます。

これからも家庭の大切さについて大事に思う気持ちを持ち続けていただけますよう期待いたしております。

結びに発表された皆さん、表彰されました皆さん、コンクールに入選された皆さんが、今後も大いに活躍されますこと、また、この大会に関係されました皆様方の御健勝を御祈念申し上げまして挨拶とさせていただきます。

令和7年度 福生市青少年の意見発表大会 実施要綱

1 目的

中学・高校生に日常生活を通じて考えていることや体験などを自由に発表させることにより、自立心、創造性、社会性を育てる機会とするとともに、広く一般市民が中学・高校生の意識や行動に対する理解を深め、青少年健全育成の充実に資することを目的とする。

2 日時

令和7年11月1日（土）午後2時から

3 場所

福生市民会館小ホール

4 主催

福生市青少年問題協議会

5 応募資格

市内に居住又は通学している中学生又は高校生

6 主題

自由。ただし、学校、家庭、地域の関わりの中で日頃考えていることや体験などを中心とする。

7 応募方法

持参又は郵送により応募するものとする。

発表する内容を400字詰原稿用紙に縦書きで、3～4枚程度にまとめる（手書きの場合は、濃くはっきりとした文字で、原本を提出）。

また、原稿のはじめに、題名、学校名、学年組、氏名、住所を記入する。

なお、ここで得た個人情報は、この要綱に基づく目的以外には使用しない。

8 応募締切

令和7年9月5日（金）

9 応募先

〒197-8501 東京都福生市本町5番地

福生市役所 子ども家庭部 子ども政策課 子ども政策係 宛て

10 発表者の選出

応募者が多い場合は、必要に応じて主催者が原稿審査の上、発表者を十名程度選出する。

11 賞

応募者全員に参加賞を贈呈するほか、発表者には賞状並びに記念品を贈呈するものとする。

12 その他

(1) 市内各中学校・高等学校に依頼するとともに、市広報、ホームページへの情報掲載や市内各所へのポスター掲示、チラシ配布等し、周知を図る。

(2) 応募した原稿に基づき、本人が5分程度で発表する。

(3) 令和7年10月28日（火）午後4時（予定）からリハーサルを行う。

(4) 市広報、ホームページ等により、発表者の同意に基づき氏名、写真等の情報を掲載するとともに、記録集の作成・配布を行う。

13 問合せ先

福生市青少年問題協議会事務局

福生市子ども家庭部子ども政策課子ども政策係

電話 042-551-1733（直通）

令和7年度 福生市善行少年表彰 被表彰者一覧

- ①福生第一小学校 菊 本 ももか 「ジュニア社会教育士養成講座」に参加し、地域をどう元気にするかを考え、調査研究成果の発表に向けて取り組んだ。
- ②福生第一小学校 三 枝 蒼 平 「ジュニア社会教育士養成講座」に参加し、地域をどう元気にするかを考え、調査研究成果の発表に向けて取り組んだ。
- ③福生第一小学校 小 泉 雫 「ジュニア社会教育士養成講座」に参加するとともに、学校行事等に、よりよい学校を作っていく意識をもち、明るく積極的な姿で取り組んだ。
- ④福生第一小学校 木 橋 理 紗 学校行事等に、自分たちが主体となって、よりよい学校を作っていく意識をもち、明るく積極的な姿で取り組んだ。
- ⑤福生第一小学校 細 野 紗 菜 学校行事等に、自分たちが主体となって、よりよい学校を作っていく意識をもち、明るく積極的な姿で取り組んだ。
- ⑥福生第一小学校 細 谷 蘭 奈 学校行事等に、自分たちが主体となって、よりよい学校を作っていく意識をもち、明るく積極的な姿で取り組んだ。
- ⑦福生第二小学校 土 井 要 「ジュニア社会教育士養成講座」に参加し、地域をどう元気にするかを考え、調査研究成果の発表に向けて取り組んだ。
- ⑧福生第二小学校 山 崎 桃 愛 「ジュニア社会教育士養成講座」に参加し、地域をどう元気にするかを考え、調査研究成果の発表に向けて取り組んだ。
- ⑨福生第三小学校 加 藤 沙 奈 学校での活動に自ら進んで丁寧に、誠実に取り組むとともに、学校以外でも自ら進んで課題を見つけ取り組んだ。
- ⑩福生第四小学校 田子山 遼 「ジュニア社会教育士養成講座」に参加し、地域をどう元気にするかを考え、調査研究成果の発表に向けて取り組んだ。
- ⑪福生第四小学校 橋 爪 悠 真 「ジュニア社会教育士養成講座」に参加し、地域をどう元気にするかを考え、調査研究成果の発表に向けて取り組んだ。
- ⑫福生第四小学校 矢 吹 快 晴 地域活動に積極的に参加し、地域の美観維持に努めるなど地域社会に貢献した。
- ⑬福生第四小学校 藁 科 愛 来 地域活動に積極的に参加し、行事の運営の補助を行い、地域社会に貢献した。
- ⑭福生第五小学校 高 木 結 月 クラスの仲間を大切に、仲間とともによりよい学校生活を送ろうと取り組んだ。
- ⑮福生第五小学校 内 藤 環 紀 「ジュニア社会教育士養成講座」に参加し、地域をどう元気にするかを考え、調査研究成果の発表に向けて取り組んだ。
- ⑯福生第五小学校 本 田 さゆ美 「ジュニア社会教育士養成講座」に参加し、地域をどう元気にするかを考え、調査研究成果の発表に向けて取り組んだ。
- ⑰福生第六小学校 榎 本 禾 学校での活動に責任感を持って取り組むとともに、学校以外の活動に積極的に参加し地域社会に貢献した。
- ⑱福生第六小学校 岡 本 優彩子 学校での活動に責任感を持って取り組むとともに、学校以外の活動に積極的に参加し地域社会に貢献した

- ⑲福生第七小学校 青山 廉 学校行事に向けて、七小金管バンドの練習に熱心に取り組み、堂々と演奏を披露し、学校内外へ良い影響を与えた。
- ⑳福生第七小学校 石井 瑛衣 学校行事に向けて、七小金管バンドの練習に熱心に取り組み、堂々と演奏を披露し、学校内外へ良い影響を与えた。
- ㉑福生第七小学校 内倉 発 学校行事に向けて、七小金管バンドの練習に熱心に取り組み、堂々と演奏を披露し、学校内外へ良い影響を与えた。
- ㉒福生第一中学校 末永 史乃 「ジュニア社会教育士養成講座」に参加するとともに、学年のみならず、学校全体の向上に向けて取り組んだ。
- ㉓福生第一中学校 山田 亜紗妃 「ジュニア社会教育士養成講座」に参加するとともに、学年のみならず、学校全体の向上に向けて取り組んだ。
- ㉔福生第一中学校 石原 昊 「ジュニア社会教育士養成講座」に参加し、地域をどう元気にするかを考え、調査研究成果の発表に向けて取り組んだ。
- ㉕福生第二中学校 鈴木 颯太 学校行事で重要な役割を果たし、部活動で部員をまとめるとともに、学業でも優れた成績を維持した。
- ㉖福生第三中学校 鹿子生 ころろ 道に迷った高齢者に対し、行き先を調べ、同行し道案内をして送り届けた。
- ㉗福生第三中学校 桐野 暖雪 地域活動への参加を呼び掛け、ボランティア精神の涵養を図った。
- ㉘福生第三中学校 村野 翠音 「ジュニア社会教育士養成講座」に参加し、地域をどう元気にするかを考え、調査研究成果の発表に向けて取り組んだ。
- ㉙福生第三中学校 磯部 倅大 「ジュニア社会教育士養成講座」に参加し、地域をどう元気にするかを考え、調査研究成果の発表に向けて取り組んだ。
- ⑳都立南多摩中等教育学校 三浦 紅葉 「ジュニア社会教育士養成講座」に参加し、地域をどう元気にするかを考え、調査研究成果の発表に向けて取り組んだ。
- ㉑都立福生高等学校 生徒 会 福生市行政に協力するとともに、積極的に地域貢献活動を行った。
- ㉒都立福生高等学校 伊東 穂 福生市主催の「平和のつどい」に参加し、市民への平和に向けての呼び掛けに貢献した。
- ㉓都立福生高等学校 栢森 翔聖 福生市主催の「平和のつどい」に参加し、市民への平和に向けての呼び掛けに貢献した。
- ㉔都立福生高等学校 町田 実莉 福生市主催の「平和のつどい」に参加し、市民への平和に向けての呼び掛けに貢献した。
- ㉕都立多摩工科高等学校 高橋 一哉 福生市主催の「平和のつどい」に参加し、市民への平和に向けての呼び掛けに貢献した。
- ㉖都立多摩工科高等学校 齋藤 準 福生市主催の「平和のつどい」に参加し、市民への平和に向けての呼び掛けに貢献した。
- ㉗福生消防少年団 小島 毅士 消防少年団活動に積極的に参加し、福生市の防火、防災に寄与した。

- ⑳福生消防少年団 平野 凜々花 消防少年団活動に積極的に参加し、福生市の防火、防災に寄与した。
- ㉑志茂睦囃子連 中川 百花 地域の囃子連の活動に励み、祭りや行事への積極的な参加により、伝統文化の継承に貢献した。
- ㉒くまこ囃子連 吉川 美玖 地域の囃子連の活動に励み、祭りや行事への積極的な参加により、伝統文化の継承に貢献した。
- ㉓牛濱重松囃子保存会 吉田 成吾 地域の囃子連の活動に励み、祭りや行事への積極的な参加により、伝統文化の継承に貢献した。
- ㉔永田町囃子連 樋上 夢乃 地域の囃子連の活動に励み、祭りや行事への積極的な参加により、伝統文化の継承に貢献した。
- ㉕加美町囃子連 山中 櫻介 地域の囃子連の活動に励み、祭りや行事への積極的な参加により、伝統文化の継承に貢献した。

善行少年表彰 被表彰者



1 目的

少年でその行為が他の模範となると認められるものを表彰し、広く少年の公德心の高揚と、より良き社会環境を作り、少年の健全な育成を図ることを目的とする。

2 表彰主体

福生市青少年問題協議会

3 対象者

市内に居住又は通学若しくは通勤している少年（令和7年4月1日現在18歳未満の者）

4 表彰の方法

個人又は団体（主に上記対象者で構成されるもの）への表彰状と記念品の贈呈により行うものとする。

5 表彰時期

年1回とする。ただし、必要に応じ随時表彰することができる。

6 被表彰者の決定

推薦による表彰候補者を審査委員会にて選考し、会長が決定する。

7 審査委員会

審査委員会は、青少年問題協議会委員のうちから会長が選任する若干の委員をもって構成する。

8 推薦者

推薦者は、関係機関、各団体、事業所等の代表者とし、機関決定の上、善行少年推薦書（別記様式）をもって推薦する。

9 推薦内容

- (1) 公共生活への貢献 公共物の愛護、公衆道徳の普及実践、公共利益となる工夫その他公共団体、地域、学校又は職場に尽くした行為
- (2) 事故防止 交通事故、水難防止その他の事故防止に尽くした行為
- (3) 環境美化 清掃美化、ごみ減量運動等に協力その他環境美化又は環境衛生に尽くした行為
- (4) 隣人愛 隣人や友人など身近な人との触れ合いや仲間作りに対して、思いやりの心を持って中心的役割を担う行為
- (5) 個人生活の徳行 個人生活で特に他の模範となる行為
- (6) 防犯 犯人逮捕を容易ならしめるための協力で特に顕著な者その他防犯に尽くした行為
- (7) 防火 火災の通報（早期発見）、消火を容易ならしめるための行為で顕著な者その他防火に尽くした行為
- (8) 人命救助 人命の救助、救急、看護など特に顕著な者
- (9) 社会福祉 社会福祉施設又は不遇な人たちへの慰問、激励、各種奉仕、金品の寄附その他社会福祉に尽くした行為
- (10) その他 その他特に善行と認められる行為

10 表彰審査において考慮すべき事項

- (1) 青少年が自主的、積極的な意思によって行われたものを尊重する。
- (2) 一時的な行為より継続的に長期にわたる行為、負担度や苦労度の多い行為を尊重する。
- (3) 同行為が、他の団体から表彰されたもの又は福生市で表彰されたものであっても、当該表彰からおおむね3年を経過したものについては、表彰の対象とする。

11 その他

市広報、ホームページ等により、被表彰者の同意に基づき氏名、写真等の情報を掲載するものとする。

12 表彰候補者の推薦依頼先

青少年問題協議会委員、市内小・中・高等学校長、市内小・中学校PTA会長、青少年育成地区委員長、町会長・自治会長、民生委員・児童委員、社会福祉協議会会長、警察署長、消防署長、保護司、防犯協会会長

令和7年度「家庭の日」図画・作文コンクール入選作品

図画の部

【1席】福生第五小学校 川端 楓花

【2席】福生第三小学校 吉田 晴、 福生第六小学校 井上 凌玖

【佳作】20点

作文の部

【1席】福生第二小学校 田代 奈愛

【2席】福生第一小学校 杉浦 凜

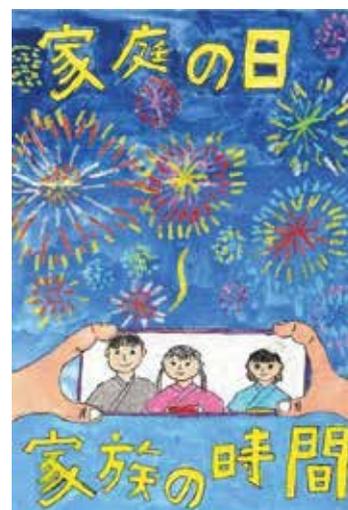
【佳作】3点



図画の部【1席】 川端 楓花さんの作品



図画の部【2席】 吉田 晴さんの作品



図画の部【2席】 井上 凌玖さんの作品

「同じ誕生日」

田代 奈愛

私と私のお母さんは、誕生日が同じです。誕生日が同じだから、私とお母さんは、似ているところがたくさんあります。楽しいところが大好きで、好きなことに夢中になるところ、少し心配症なところや、おいしいものを食べるのが大好きなところなど色々あります。同じ誕生日なので、当然、星占いの結果もいつも同じです。最近では、同じ言葉をおたがいが同時に言うこともあって、私たち本当によく以てるよね。親子だね」と、笑い合うことも多いです。お母さんとは、ふたりきりで出かけることもあります。そのときは、ふたりの好きなことを思いきり楽しもうと決めていきます。お買い物したり、行きたい場所に「行っておいしいものを食べたり、時には、ライブや野球を見に行くこともあります。悩みがある時は、たくさん話をしてなぐさめあいます。私は、お母さんと同じ誕生日で、似て

いるところがたくさんあることを、とてもうれしく思っています。そして、私には双子の弟と妹がいます。双子なのでふたりは同じ誕生日です。少しゃやこしいですが、私の家族には、同じ誕生日のペアが二組いるということがあります。弟と妹も、私とお母さんのようによく似ていて仲良しで、ふたりとも双子でいることをうれしく思っています。でも、残念なことに、お父さんだけが誕生日のペアがいまいません。私たちは、お父さんが大好きなので、お父さんの誕生日は、ピアノを弾いて歌を歌って、プレゼントとケーキを準備して、さい大にお祝いしています。すると、お父さんはとてもよろこんでくれます。私とお母さん、弟と妹は、誕生日に「おめでとう」と言っています。同じ誕生日に生まれて、似ているところがたくさんあって、大好きなお父さんがいて、とても幸せに思っています。この先もずっと、家族みんなでお父さんの誕生日と二つの「同じ誕生日」をお祝いし続けたいです。

私の家族が大切にしていること
 福生第一小学校 五年一組 杉浦 凜
 私の家族には、大切にしていることがあります。それは、夕食は、家族みんなが楽しく食えることです。
 私がじゅくに行く日は、夕食を食べるのがおそくなってしまうけど、両親は、夕食には女に食べたい？と言って、私のリクエストを必ず聞いてくれます。二人が作ってくれたのは、お父さんが作ってくれたスパアリブと、お母さんが作ってくれたロトルキャバリは絶品です。勉強は大変だけど、家に帰ったらおいしいごはんを食べられると思うと、勉強もがんばれます。
 夕食の時間の楽しみは、ご飯のほかにもあります。それは、「家族で楽しくおしゃべりすること」です。お父さんは私の話に時々ツッコミを入れたり、にこにこしながら話を聞いてくれます。お母さんは、いつも優しく話を聞

が大好きで、ちょっとしたことでも褒めてくれます。また、私が学校で起きた話や、くで起きた出来事を話すと、二人とも自分が小学生だったころの話をしてくれるので、それを聞くのがとても楽しみです。
 ふだんは、お父さんもお母さんも仕事でいそがしいのですが、夕食の時間は家族がそろって、みんながたわいもない話をするのがとても楽しいです。これから、家族で過ごす時間も大切にしたいです。いつまでも仲良く楽しく過ごしたいです。

1 目的

「家庭の日」※の図画・作文を市内の小・中学生から募集し、「家庭の日」に対する関心を高め、優秀作品を市内公共施設に掲示するとともに、広報等に発表することにより、家庭の大切さを訴えることを目的とする。

※「家庭の日」とは、青少年の心身ともに健全な育成を図るため、家族全員が顔をそろえて有意義な一日の生活をともにする日とし、毎月第3日曜日とすることを昭和41年に福生市で決議したものをいう。

2 募集者

福生市青少年問題協議会

3 応募対象者

市内に居住又は通学している小・中学生

4 題材

「家庭の日」又は家庭にちなんだ図画・作文

- ・(例) 私の家族、私のお父さん、私のお母さん、家族での思い出(家族旅行、スポーツ、料理や掃除のお手伝いなど)
- ・図画の大きさは、B2判からB5判までとする。
- ・作文は、800字以内とする。
- ・「家庭の日」啓発事業であるため、図画にはできる限り「家庭の日」の文字を入れるものとする。

5 応募方法

持参又は郵送により応募するものとする。

また、題名、学校名、学年組、氏名を明記するものとし、学校を通しての応募の場合は、提出者全員の名簿を添付するものとする。

なお、ここで得た個人情報、この要綱に基づく目的以外には使用しない。

6 応募締切

令和7年9月5日(金曜日)

7 応募先

〒197-8501 東京都福生市本町5番地

福生市役所 子ども家庭部 子ども政策課 子ども政策係 宛て

8 賞

図画は、小・中学生から1席1点、2席2点、佳作数点とする。

作文は、小・中学生から1席1点、2席1点、佳作数点とする。

ただし、該当作品がない場合は、この限りでない。
また、応募者全員に参加賞を贈るものとする。

9 展示

令和7年12月20日（土曜日）から令和8年1月16日（金曜日）までの間、市役所1階北側玄関付近に入選作品（図画・作文）を展示するものとする。

10 その他

- (1) 1席、2席、佳作及び参加賞の賞品は、原則として学用品とする。
- (2) 市広報、ホームページ等により、入選者の同意に基づき氏名、写真等の情報を掲載するものとする。

11 問合せ先

福生市青少年問題協議会事務局
福生市子ども家庭部子ども政策課子ども政策係
電話 042-551-1733（直通）

「家庭の日」図画・作文コンクール 1席・2席入選者



第 32 回 福生市青少年の意見発表大会記録集

令和 8 年 1 月

発 行：福生市青少年問題協議会

編 集：福生市 子ども家庭部 子ども政策課

〒197-8501 福生市本町 5 番地

電話 042-551-1733

F A X 042-551-2133



